

<p>横浜市小学校社会科研究会</p> <p>4 学年部会</p> <p>研修会記録</p> <p>第 4 号</p>	<p>令和6年 9月4日</p> <p>横浜市小学校教育研究会 会長 沼田 留美子</p> <p>横浜市小学校社会科研究会 会長 高畠 聡 同 学年部長 八木 浩司</p>
<p>【提案日時】 9月 4日 (水)</p> <p>【会 場】 横浜市立 平沼小学校</p>	<p>【さちが丘小 会場】</p> <p>提案 倉方 一樹 先生 (さちが丘小)</p> <p>司会 塚本 航太 先生 (四季の森小)</p> <p>記録 山本 凌成 先生 (長津田第二小)</p> <p>【新吉田第二小 会場】</p> <p>提案 鳥山 陽子 先生 (新吉田第二小)</p> <p>司会 坂本 実 先生 (川和東小)</p> <p>記録 河井 由佳 先生 (勝田小)</p>
<p>【提案 倉方 一樹 先生 (さちが丘小)】</p> <p>1 提案内容 「地域に受け継がれる伝統文化 ～半ヶ谷囃子～」</p> <p>2 提案者より</p> <p>○半ヶ谷囃子について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約200年の歴史をもつ。第二次大戦で中断されるが、地域の人々の苦勞もあって復活する。以来、口伝で伝わり、今は15名程度が参加して活動が続いている。 ・近隣の同様な囃子も存続の危機に立たされている。 ・コロナ禍による参加者の減少、地域との間で空いてしまった距離感に悩む。 ・現会長の思いは、「去る者は追わず、来る者は拒まず」。長く続けたいが、一度関わった人が戻れる場所でありたい。 ・半ヶ谷囃子とは、毎年4年生が関わり、5年生で関わっている児童が数名いる。 <p>○子どもの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の学習状況調査では平均程度である。 ・担任として追究の姿勢を育てたいと考えている。 ・注目児童は未定である。 <p>3 協議会</p> <p>○県の年中行事との関わり、タイミング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(授業者) 県のことを少し調べ、その中で地域の材「半ヶ谷囃子」で学び、県内の他の年中行事も同様であることを学ばせたい。 	

- ・地域の材を中心に学習し、県内の年中行事を学び、単元終末の選択・判断を行うとよかった。ただし、地域の材から県内に戻すことはひと工夫が必要だった。
- 県内の他の年中行事を半ヶ谷囃子と同程度に学習する価値はあるのか。
半ヶ谷囃子が「県内の代表する文化財・年中行事」と言えるのか。

○中心的に扱うための要件

- ・学習するにふさわしい「県内の代表する文化財・年中行事」とは、助成や保存会、長く残すための取組を行っていて実社会とつながっているか、年表を活用とした調査活動ができるかなどが、その要件である。
- ・学習指導要領によれば、本単元は「歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなど」に着目する単元であり、半ヶ谷囃子で、それらの学習内容を押さえられる教材であれば半ヶ谷囃子を扱ってもよいのではないか。

【提案 鳥山 陽子 先生（新吉田第二小）】

1 提案内容

「水害にそなえよう、ぼくたちの早淵川～川は広いな、長～いな～

2 提案者より

単元の導入では、実際に早淵川を見学したり、地域の方の話を直接聞いたりすることで、水害を自分たちの身近な問題として認識させたい。そして、自分たちの学校が避難場所になっていないという事実と出合わせることから、問いをもたせようとしている。さらに、市や県や国の関係機関の取組について学習した後、本気の学習問題にするために、町内会館を避難所として開設するMさんの思いに迫り、関係機関や地域の人々が協力して水害から守る取組を行っていることを考えさせるようにした。
本気の学習問題にするために町内会を扱うことについて意見をいただきたい。

3 協議会

<質問>

○早淵川＝鶴見川の捉えで良いか？

⇒鶴見川の一部として扱うのではなく、関係を確認しておくべき

○町内会と学校の関係は？

⇒本校は水害の避難所ではなく、「なぜだろう」と問いをもたせ、避難所を開設している町内会に着目させたい。

⇒ハザードマップで学校の位置なども確かめておくべき

<本気の学習問題について>

○学校は場所的に避難所を開設できず、Mさんが避難所を開設することの大切さから迫っていくのはどうか。

○遠くにある避難指定場所と町内会の取組との違いについて調べると、Mさんの思いが見えてくるのではないか。

○公の避難場所ではない町内会館を避難場所として学習してよいのか。

○避難場所として公のものではないが、町内会で実際に避難する場所としての役割であり、指定された避難場所とは違うものとして学習するのは良いのではないか？

○「なぜ、避難場所ではないのにMさんは地域の人のためにやっているのだろう」ということに注目してはどうか。

<単元の構想や流れについて>

○単元構想を明確にするために、単元構想図があればよい。

○前半にグループ活動、後半に災害対策の講話の流れになっているが、反対の流れにすると、具体的なものから子どもたちが考えを広げる学習となるのではないか。

<講師の先生より> 西富岡小学校 黒田由希子先生

- ・台風災害が身近なところでも起こっている。子どもたちにとって「考えないと」という自分事になるものである。
- ・早淵川近くである学校が避難所になっていない事実から、身近な川が私たちにとってどんな川かを考えることにもつなげることができる。
- ・県全体を見る視点と、身近な地域を見る視点の両方を育てていく学年である。県→身近とするか、身近→県とするかは悩ましいが、単元構成の段階でしっかりと考えたい。
- ・地域、治水のことをこんなにも考えてくださっている方との出会いはとても貴重なものである。

<講師の先生より> 荏田小学校 伊藤智樹先生

- ・材は、学習指導要領の内容を満たすものであるかを検証する大切さを感じる。身近に素敵な材があれば使いたくなるが、単元を通して学習するのに適しているかを確認したい。
- ・県のお囃子について、「県内」＝市内と扱ってもいいのか。ただ、遠いところよりは必然性はあると言える。
- ・「県内のお祭りも思いは一緒のはずだ」と子どもたちが単元を見通すことができるのではないか。
- ・お祭りへの「参加」だけが選択ではない。支援などほかにも選択できることがある。

文責 山本 凌成 (長津田第二小学校) 河井 由佳 (勝田小)